

この旅も9月に入った。2016年8月24日から始まった旅は9日目を迎える。大連は秋の気配が忍び寄って来た。最後となる本稿は、大連の新名所の紹介と2日の帰国の日の飛行機での体験で締めくくりたい。

9月1日、旅の最後の夜が来たが、昨年大連の友人から「大連の新名所の橋ができたので見に来たら」と、美しい曲線美を描く夜景の動画を微信で送ってくれたので、それを見に行くことにした。その友人と夕食後ホテル前からタクシーに乗りこんだ。橋の名前は、「星海湾大橋」という。

星海湾大橋は2015年10月末に完成した。全長6.8キロメートル、上下線合わせて8車線、しかも車道は2階建構造で歩道もある素晴らしい橋である。イメージとしては日本では車道と電車を走らせる二重構造の本四架橋を思い浮かべる。大連には毎年のように行っているが、建設中の橋を見たこともなければ昨年まで友人からのライトアップされた動画が来るまで知らなかった。開通の10か月後に行っていきなりこのような光景に出くわすと、さすがに驚嘆を禁じ得ない。大連市内は年を追うごとに交通渋滞がひどくなっていたので、単なる観光用だけではなく混雑する中心部から旅順方面のバイパスが必要になってきたのではなかろうか。反対方向にあたる経済開発区方面も渋滞が慢性化していたので数年前に海上にバイパスの道路を造っている。地下鉄も2路線開通し、大連は年ごとに交通網の充実を目の当たりにする。3月号に書いたように2018年は新空港の開港が予定されている。

この橋へは、市内の「八一路」「長春路」「東北路」の三本の道路から完成したばかりの美しい蓮花山トンネルを通過して入り、海上を「S」字の曲線を描く道路を走り、旅順側の高技術産業園区の「七賢岭」で以前からの大通りに合流する。全線が制限速度が60キロメートルに設定してあり、監視カメラが怖いからかカミカゼ運転する車はいないのが奇異に感ずるほどだ。途中にあるアーチ式の部分では路肩に車を停めて写真を撮っている人が大勢いた。夜景は特に素晴らしく夢の中にいるようであった。ちなみに通行料は無料。

9月2日。今回の旅の最終日である。ちょっと寂しさが胸をよぎる。10日間雨も降らず晴天の日が多く、晴れ男の面目躍如である。10時ころ友人がお土産を持ってホテルを訪ねてくれた。空港まで荷物が多いし年寄りなので送ってくれると笑いながら言うのでご厚意に甘えることにした。フロントで退室手続きをすると、押金(保証金)を200元返してくれた。地下鉄でもいいが荷物が重いのでホテル前でタクシーに乗り込む。無事空港に着き、友人とは来年の再会を約して別れた。

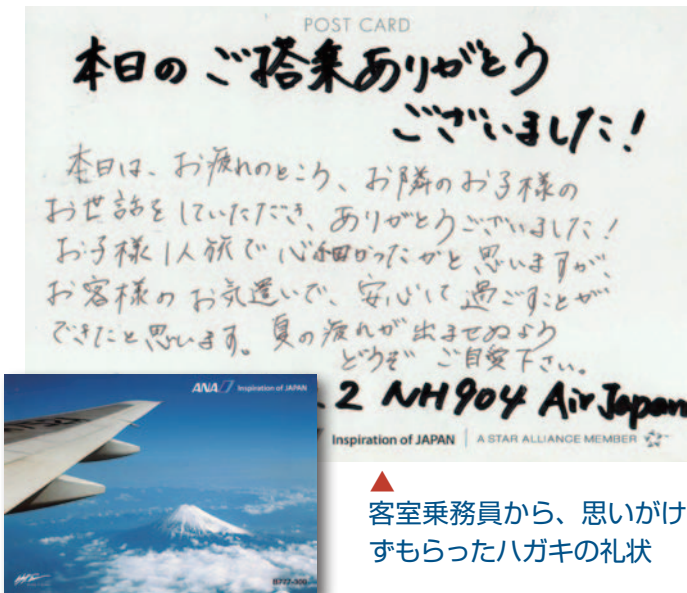
ANAのカウンターで発券してもらい税関を通過して26番ゲート近くで待つ。数年前の空港ターミナル拡張までは、1番か2番登場口であったのを思い出す。ANAのNH904便は13時15分出発なので12時45分くらいから順次搭乗開始となった。私の席は2人掛けで通路側の19Hである。自分の席に向かうと隣の窓側の席である19Kには小さな女の子がシートベルトをしっかりと締めて座っていた。念の



星海湾大橋 (画像はトリップアドバイザーから)



星海湾大橋 (グーグルアースから)



▲客室乗務員から、思いがけずもらったハガキの礼状

ため私の搭乗券を見たが19Hで間違いはない。中国人らしいので、「媽媽は？」と聞いても返事がない。小さな子には親が同伴するのが普通である。まもなくステewardess (以下CA) が来てようやく事情が分かった。一人旅で成田に着くと親が迎えに来ているという。機中はCAが有料か否かは知らないが、面倒を見ることになっているとのこと。女の子はCAからもらったグッズを珍しそうに見ている。

成田までの3時間弱の間、何もしゃべらないというわけにもいかないので少しずつ話をすることにして、「いま何歳？」と聞くと、ようやく「5歳」と答える。私を警戒しているようである。知らない人から声をかけられても返事をしないように、とママから言われているのかもしれない。そっけない対応なので少し様子を見ることにした。女の子の首にはネームプレートが下がっていてそこにローマ字で「YU RUO XI」と書いてある。声調は書かれていないので私は勝手に「于若希」かな、と想像した。まだあれこれ聞くような雰囲気ではない。

離陸してまもなく食事の時間になった。女の子の前のテーブルを出してあげる。CAは順次トレイの食事を配り始めて忙しそうである。トレイが来たので私から女の子の前のテーブルに置いてあげた。飛行機での食事は初めてらしく、じっと見ている。シートベルトで体がしっかり固定されているので、思うように食べられないみたいである。ここから私の日頃の5人の孫への経験が役に立ってくる。同じ5歳の孫がいるので親しみが湧いてくる。まず箸袋から箸を出しスプーンとフォークを手前に揃えてあげる。そ

れぞれの料理の入れ物のプラスチックのふたを取り、食べやすくしてあげる。飲み物のワゴンが来たので、「リンゴジュースがいいの？ それともミカンジュース？」と中国語で聞いてあげる。本人は一言、「リンゴジュース」と言うのでCAに伝える。そのうちようやく、このおじいさんは悪い人ではないと感じたのか、警戒心が緩んできて時折微笑みが口の端に上って来た。手の届かない食べ物をスプーンに入れ口元に運ぶと大きく口を開けて素直に食べ始めた。時折CAがそばを通りかかり、「本当のお孫さんのようですね」と言ってこちらの苦勞も知らないで向こうに行く。ANAの食事は美味しかったらしくこの子はすべて平らげてしまった。ウェットティッシュで口元と手を拭いてやると、にこっと笑ってくれた。

食事が片付け終わるとCAからもらったおもちゃで遊ぼうと言う。折りたたんであるナイロン製の飛行機を私に差し出すので脹らませてやると、はしゃぎまわって私の顔のほうに近づけたりして喜んでくれる。そのうち二人でくすぐりっこを始めると今まで無口だったのがウソみたいに一気にしゃべりはじめた。こうなると逆に手に負えなくなった。私の中国語のレベルでは到底ついていけない。適当に相槌を打つしかなくなってきた。楽しい時間はすぐ経つものでまもなく飛行機は着陸態勢に入り、またもとの静かな女の子になっていった。

着陸した後、担当と思われるCAが私の所に来て、「本日はお客様のおかげで本当に助かりました。ありがとうございました。」と深々とお辞儀をし、「お客様のお孫さんにどうぞ」と、微笑みながらお礼の言葉が書かれたANAの絵葉書と共に子供向けのグッズをいくつか渡してくれた。搭乗した時はどうなることかと思ったが、この子のおかげで2時間45分のフライトはあっという間に終わりを告げた。あとはCAに任せて手を振って別れた。

すこしオーバーだが長生きするといろいろな体験をするものだと感じた。ただ、可愛らしいこの子のツーショット写真を撮るのを忘れたことを後で気がつき未だに悔やんでいる。この子はママに何と伝えたのであろうか、今頃は何をしているのであろうか、元気であるのであろうかと懐かしく思い出している。今回の旅は、思い出に深く残る一期一会の旅となった。

(おわり)